

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1
電話：03-3541-5151（代表）
担当者の所属・氏名 消化器内科 中村 健二

【研究責任者】

聖路加国際病院 消化器内科 中村 健二

超音波内視鏡を用いた治療(内視鏡で穿刺針を用い胃腸の壁の間にある胆汁や膵液、膿の溜まり等を取る治療)をお受けになった方を対象とした治療成績の比較検討に関する研究

1. 研究の対象

- ・当施設において、2012年4月から2021年3月までに超音波内視鏡を用い、レントゲンを併用した治療をお受けになられた患者さん。

2. 研究の目的・方法

- ・超音波内視鏡を用いた治療は超音波内視鏡下瘻孔形成術として、本邦において2012年に保険収載され施行されています。
- ・超音波内視鏡下瘻孔形成術は閉塞性黄疸(胆管が詰まった状態)や腹腔内膿瘍(お腹の膿の溜まり)に対する治療法として、その治療成績は80-90%前後と報告されています。
- ・超音波内視鏡下瘻孔形成術は、コンベックス型と言われる超音波内視鏡を使用しますが、本邦では2種類あり、直視型と前方斜視型がありますが、これらの機器の違いによる治療成績のまとまった検討はありません。
- ・今回、当施設で超音波内視鏡を用いたレントゲンを併用して行った治療をお受けになられた患者さんの治療成績や患者さんの背景につき、直視型と前方斜視型で治療成績に相違があるかを比較検討する研究を立案しております。
- ・なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2023年12月31日までの予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・カルテ番号、年齢、性別、併存疾患、既往歴、薬剤服用歴、内視鏡所見、病理所見、放射線画像所見、血液検査所見などを収集・評価させていただきます。